

オープン・スペース・テクノロジー（OST）とは

OSTは、1985年ハリソン・オーウェン氏（Harrison Owen）によって提唱されました。参加者が議論したい課題を自ら提案し、自主的に話し合いを行う手法です。参加者の当事者意識を最大限に引き出すことにより、納得できる合意に到達できる、5人～2,000人まで一堂に会しての会議を可能にする手法です。

OSTはアトランタオリンピックやポストアパルトヘイトの南アフリカでの活用実績、商品の開発、企業の合併、地域コミュニティサービス、民族対立にいたるまで、混乱と対立を解決し、大きな成果を生む実績をあげています。現在に至るまで世界123カ国で、何百万人の人々により、10万回以上も行われています。

OSTの用途と効果

OSTは、新製品の開発や疲弊した組織の再生など、大規模で複雑なコンフリクトの多い課題に対して使用すると効果的です。

多様な人々からなるグループが複雑で対立を生じやすい課題に取り組む場合や成功のための継続的な参加が必要とされている場合、解決策を見出すために全組織を挙げて取り組む必要性を感じている場合などに効果的です。

OSTの進め方

参加者自身が話し合いたいテーマを設定し、時間と場所を決定します。

参加者は、どの課題に参加することも自由です。また、自分が選択した課題に貢献できないと感じたときには、その場から自由に移動することができます。ハチのように次から次へと課題を飛び移ることで、より多くの情報を参加者に提供したり、蝶のように休憩所に止まっていることで多くの人とコミュニケーションする機会を持ち、関係性を円滑にする効果を提供したりするなど、すべてはその人らしい貢献の仕方に委ねられています。

